松河戸排水区等大規模雨水処理施設整備事業計画（春日井市）

（様式１）

項　　目	内　容　・　施　策　等
選定理由	当市は、令和４年度に計画降雨に気候変動の影響を踏まえた雨水計画の見直しを行った。松河戸排水区は、JR中央本線春日井駅の南側に位置し都市機能を誘導し集約する区域を含む排水区であり、浸水被害の発生状況や浸水リスク、資産、人口集積度等を勘案した結果、重点対策区域に設定し、床上浸水解消（想定浸水深0.5m未満）を目指す地区としている。 さらに、勝西第１排水区は、名古屋鉄道味鋺駅の徒歩10分圏内に位置し、松河戸排水区と同様に重点対策区域に設定し、床上浸水解消（想定浸水深0.5m未満）を目指す地区としている。 両排水区の排水先は直轄河川である庄内川である。 このことから、流域治水の観点からも調整池の早期整備を進め、内水浸水被害の軽減を図ることを目的とする。 また、計画地区にある南部ポンプ場及び勝西ポンプ場は、耐震化及び耐水化と合わせて適切な機能確保を図り浸水被害を防止するため、集中的な雨水処理施設の改築を実施する必要がある。
整備目標	①　本計画における対象降雨 ・ハード整備による整備水準の目標：69.3mm/hr　（10年確率降雨×1.1倍※） ※降雨量変化倍率1.1倍を考慮 ・雨水排水能力を145.14㎥/minから335.40㎥/minに増強（勝西ポンプ場） ②目標設定 ⅰ）生命の保護の観点　　：当該排水区における床上浸水を防止する。 ⅱ）個人財産の保護の観点：家屋の床上浸水を防止する。 ⅲ）その他　　：特になし ③ハード対策、ソフト対策及び自助の役割分担について ⅰ）ハード対策 施設整備により 69.3mm/hr において床上浸水を防止することを目的とする。 ⅱ）ソフト対策及び自助 ハード整備による整備水準の目標を上回る想定最大規模降雨 147mm/hr において、下水道管理者による内水ハザードマップ作成・公表などの情報提供、民間事業者による貯留浸透施設の設置等、それぞれの主体が対策を実施することにより、被害をできるだけ小さくする。

項　　目	内　容　・　施　策　等
内水ハザードマップ策定状況	・（有）（令和３年６月１日策定済み）

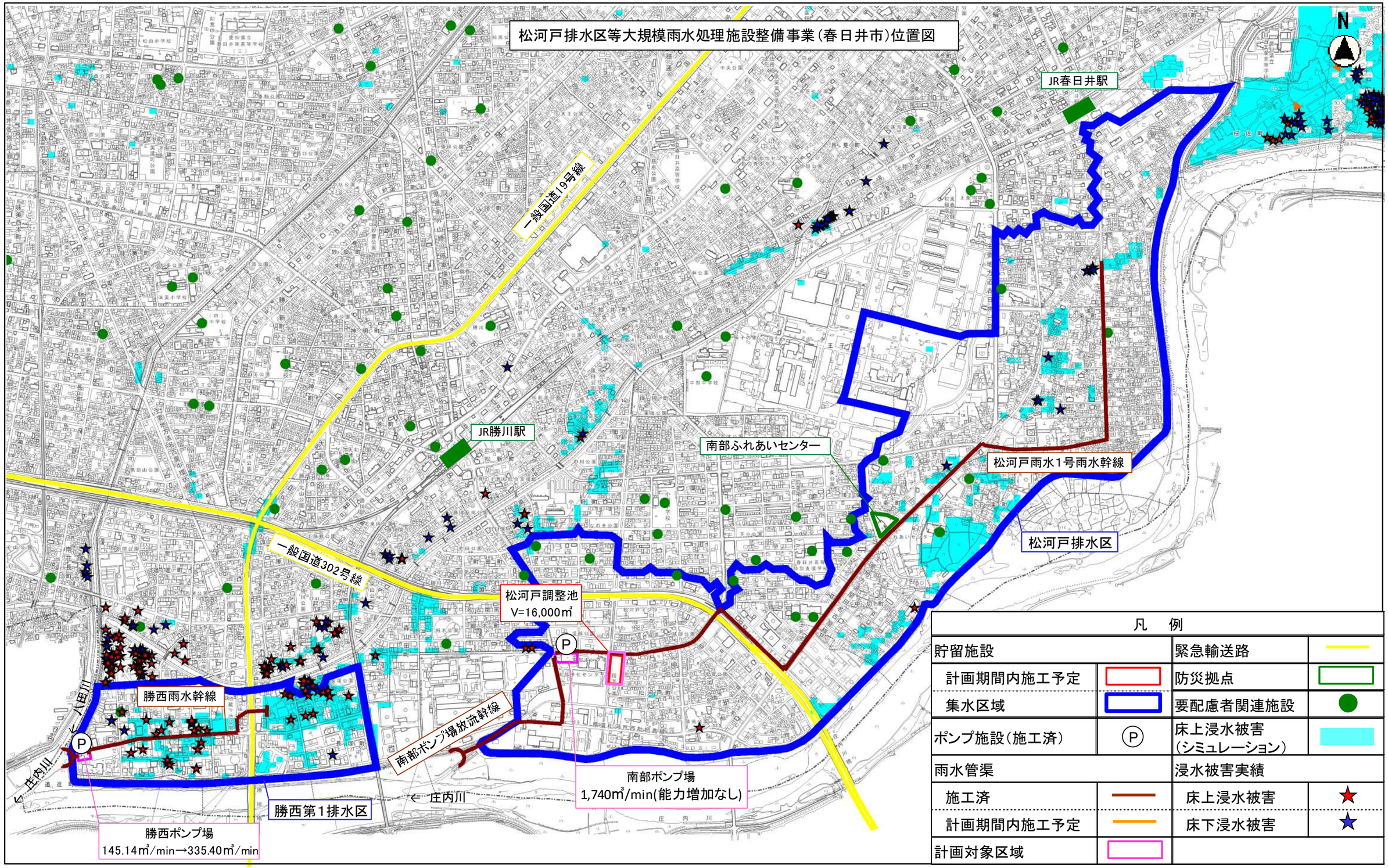
主な事業内容	公助	ハード対策	下水道管理者	・雨水貯留施設の整備　貯留容量計 16,000 ㎥ （松河戸調整池） ・雨水施設の改築　ポンプ設備（南部ポンプ場） 1,740 ㎥/min(能力増加なし) ポンプ設備（勝西ポンプ場） 145.14 ㎥/min → 335.40 ㎥/min
			下水道管理者以外	・該当なし
		ソフト対策	下水道管理者	・内水ハザードマップの作成・公表
			下水道管理者以外	・該当なし
	自助	ハード対策		・各戸貯留浸透施設　77 戸 (春日井市雨水貯留浸透施設設置補助金交付要綱)
		ソフト対策		・総合防災訓練(春日井市市民安全課)

年度計画（百万円）

名称		R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	計
雨水貯留施設		9	69	0	800	805	810	815	820	0	0	0	4,128
雨水ポンプ場	南部ポンプ場	0	67	0	420	500	30	82	30	82	30	82	1,323
	勝西ポンプ場	0	40	130	115	300	410	335	750	1260	297	120	3,757
計		9	176	130	1,335	1,605	1,250	1,232	1,600	1,342	327	202	9,208

項　目	内　容　・　施　策　等
整備効果	＜事業評価の内容＞ 被害軽減額：473.9 百万円 Ｂ／Ｃ：2.33 経済的内部収益率：12.353％ ＜その他の定量的な効果＞ 床上浸水面積（浸水深 0.5m 以上）　0.06ha → 0.00ha 床下浸水面積（浸水深 0.01～0.5m未満）　27.02ha → 12.43ha
放流先河川との調整状況	当該地区の排水は庄内川に放流する計画であり、放流先河川管理者と目標降雨放流量等の整合を図っている。
その他	

松河戸排水区等大規模雨水処理施設整備事業（春日井市）位置図



凡　例			
貯留施設		緊急輸送路	
計画期間内施工予定		防災拠点	
集水区域		要配慮者関連施設	
ポンプ施設（施工済）	Ⓟ	床上浸水被害（シミュレーション）	
雨水管渠		浸水被害実績	
施工済		床上浸水被害	★
計画期間内施工予定		床下浸水被害	★
計画対象区域			

縮尺　1：15000

100 50 0 100 200 300 400 500 600